

第 67 回秋季大会の開催案内

日本社会福祉学会第 67 回秋季大会 実行委員長 相澤 仁 (大分大学)

会員の皆様方にはすでにご案内のとおり、来る 9 月 21 日 (土) 22 日 (日) に伝統ある日本社会福祉学会第 67 回大会を、はじめて国立大学である大分大学旦野原キャンパスで開催させていただきます。

現在、学会役員・事務局をはじめ多くの方々のご支援ご協力をいただきながら、本大会の開催に向けて準備を進めているところです。

多くの会員のみなさまの参加をスタッフ一同こころよりお待ち申し上げております。会員の皆様、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、本大会のテーマですが、「共生社会の構築に向けて～自立と多様性の共存」としました。我が国は超少子高齢化社会という一筋縄ではいかない超難問に取り組まなければならない、超少子高齢化社会を乗り越える方法として提案されたのが、地方創生、地域共生社会の実現、地域包括ケアシステムの構築であり、その必要性が指摘されております。私たちは、地域共生社会の根本を問うためにも、もう一度、「自立」や「共生」の意味を深く考えることが必要ではないかと考え、今回のテーマを設定しました。

そこで本大会のテーマを受け大会校企画シンポジウム (第 1 日目 9 月 21 日 (土) 14:15 ~17:45) として「自立は社会福祉の規範たり得るか～存在の多様性を支える論理とは」を設定しました。多様性とは「存在のあり方の多様性」つまりは「自立し、自己決定出来ない存在であっても、その存在を肯定すること」ではないだろうか。「存在の多義性」とは何を意味するのかなど、本シンポジストはこうした関心に基づいて、社会福祉の実践の基礎を提供する「学」がいかなる「存在の多様性と多義性」を担保しうるのか、それぞれの立場から研究実践してきたシンポジストからの所論を提供されることによって、ポスト「自立」論の在処と可能性を探ろうとするものです。こうした試みを通じて、社会福祉「学」が真に担保しうる「多様性を許容する論理」とはいかなるものか、またそれを価値基盤とする実践の様相はどのようなものか、単に机上の空論で終わらない実証的にクロスオーバーする議論の展開を目指しています。

本大会のスタートを切っていただくのは、学会企画である「留学生と国際比較研究のためのワークショップ」と「スタートアップ・ワークショップ」(第 1 日目 9 月 21 日 (土) 10:00~12:00) です。

これまで会員の皆様の支持のもとに実施してきた「若手研究者のためのワークショップ」が、「スタートアップ・ワークショップ」と名称を変更して本大会より開催することになりました。「若手・女性研究者に対する支援検討委員会」を中心に開催に向けた企画の検討が行われ、本大会では、研究計画の立て方、研究申請書の書き方等、科研費を中心に競争的資金の獲得を目指した「社会福祉研究における研究費獲得に向けたワークショップ」をテーマに開催することになりました。

具体的には、科研費申請書を中心とした助成金申請書の書き方のポイントについての講演

後に、グループに分かれて、それぞれ自分の問題点を相談し相互に検討し合うワークを行い、良い申請書にするにはどうすればよいかを議論する予定です。奮ってご参加ください。

本大会には、口頭発表、ポスター発表、特定課題セッションでの発表などに 200 題以上のエントリーがありました。

大分という地は参加するには決して便利な場所とは言えませんが、一方で観光資源や食材などが豊富なところではあります。是非とも本大会に参加いただき、専門性を深めるとともに命の洗濯をしていかれて下さい。皆様の参加をスタッフ一同よりお待ちしております。

なお、大会参加のための宿泊施設や交通手段は早めに確保されることをお勧めします。